



近畿ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 渡邊 大

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター

臨床研究センター エイズ先端医療研究部長

研究要旨

【目的】近畿ブロックにおけるHIV診療課題を抽出し、診療体制の維持・向上を図る。

【方法】患者動向および標準化死亡比・悪性腫瘍の標準化罹患比の経時的分析、全国緩和ケア病棟（459施設）への受け入れ調査、近畿ブロック都道府県・エイズ拠点病院等連絡会議、研修会の企画と実施、患者向け資料『あなたに知ってほしいこと』の改訂（新薬情報、生活習慣、支援団体情報等）を実施した。

【結果】新規診断患者と標準化死亡比は大きく低下したが、中年層の死亡非エイズ関連がんリスクの懸念は持続していた。外国籍の初診患者が2017年頃から増加し、2023-2024年には初診患者全体の22～23%を占めるに至った。緩和ケア受入れ困難の主因は、HIVでは体液曝露への不安（39.0%）、血友病では高額な薬剤費（70.2%）であった。

【考察】特定のがん検診や多言語対応の強化、受入れ障壁解消に向けた拠点病院による多職種研修など支援に向けた研究の継続が不可欠であると考えられた。

A. 研究目的

日本のエイズ診療体制は、全国を8つのブロックに分け、地域ごとに医療体制の整備が進められている。その中で近畿ブロック（2府4県）は、ブロック拠点病院である大阪医療センターと各府県の中核拠点病院が連携し、地域医療の向上を担ってきた。本研究は、近畿ブロックにおける近年のHIV診療の課題を多角的に明らかにし、診療の質と体制を継続的に向上させることを目的としている。具体的には、患者動向の精緻な調査に加え、拠点病院等連絡会議の実施、多職種向け研修会の実施、啓発資料の作製と改訂、および緩和ケア病棟における受入れ実態の解明に取り組んだ。

B. 研究方法

大阪医療センターにおける初診および新規患者数の推移を継続的に調査し、外国籍患者の背景分析を行った。疫学的分析として、2007年から2024年にかけての標準化死亡比（SMR）および悪性腫瘍の標準化罹患比（SIR）の経時変化を検討した。また、全国の緩和ケア病棟459施設を対象に、血友病

またはHIV感染症に罹患しているがん末期患者の受入れに関するインターネット質問調査を実施した。教育・啓発面では、研修用資料『あなたに知ってほしいこと』を毎年度改訂した。

<倫理面への配慮>

研修・教育に用いた症例呈示では、患者個人が特定されない等の配慮を行った。患者動向の調査と緩和ケア病棟の受け入れ困難と予測される要因に関する検討は倫理審査を受け承認を得た（整理番号：25034、25041、24200）。

C. 研究結果

1. 患者動向と外国籍患者の増加

当院の初診患者数は2010年の264例をピークに減少傾向にあり、2020年以降は年間110例前後で推移していた（2025年は120例）。2023年から2025年の3年間、AIDS患者数は平均12例（割合21%）と緩やかに減少した。特筆すべき点として、外国籍の初診患者が2017年頃から増加し、2023-2024年には初診患者全体の22～23%を占めるに至った。その背景はベトナム、フィリピン、中国などの東南アジ

ア・東アジア国籍が中心であり、若年層の労働力としての来日者が多いことが推測された。

2. SMRおよび悪性腫瘍のSIRの推移

大阪医療センターにおける全死因の標準化死亡比は、2007-2011年の4.11から2021-2024年には1.27へと大幅に改善した。しかし、40-64歳の中年層では依然として死亡比が高く、特に悪性腫瘍が主要な要因となっていた。全悪性腫瘍のSIRは0.86（2021-2024年）に減少したが、これはエイズ関連悪性腫瘍の激減によるものであった。一方で、非エイズ関連のがんのうち、肛門がん（SIR40.63）および口腔・咽頭がん（SIR3.16）のリスクは依然として高い状態が持続していた。

3. 研修の実施と資料開発

実施した研修会はリモート開催を含む9-12件/年であった。HIV感染症医師実地研修に関しては、毎年3-4名の参加があり、HIV感染者・AIDS患者の診療に関する実施研修を行った。資料では『あなたに知ってほしいこと』を臨床現場のニーズと最新知見に基づき以下の改訂を行った。2023年度（第18版）はカブシド阻害剤（レナカパビル）の承認対応、最新のエビデンスに基づくHIVライフサイクルの修正、持効性注射剤に関する情報の追加、2024年度（第19版）は睡眠不足や不規則な食事、体重管理、食事前の手洗い等の生活習慣・衛生管理に関する注意喚起を拡充、2025年度（第20版）は国内の多様な支援団体情報へのアクセスを容易にするための情報更新を行なった。

4. 緩和ケア病棟受入れ実態調査

285施設（62.1%）から回答があり、調査協力同意が得られたのは271施設（59.0%）だった。HIV陽性のがん末期患者の受け入れについて、110施設（40.6%）が断りたくないという回答している一方、断りたい31（11.4%）、どちらかという断りたい33（12.2%）が見られた。146施設（53.9%）は受け入れ困難と回答し、受け入れ困難が予測される理由（複数回答）としては、経験がない110（75.3%）が最も多く、血液・体液暴露が起こった場合にスタッフを守れない57（39.0%）が続いた。受け入れ困難のうち53施設（36.3%）は何らかの方策・条件があれば受け入れ可能と回答し、方策・条件（複数回答）については、アドバイスをくれる専門家の存在28（52.8%）が最も多く、エイズ拠点病院との連携



あなたに知ってほしいこと

強化18（34.0%）が続いた。血友病（類縁疾患を含む）については、136施設（50.1%）が断りたくないという回答している一方、断りたい17（6.3%）、どちらかという断りたい14（5.2%）が見られた。121施設（44.6%）は受け入れ困難と回答し、受け入れ困難が予測される理由（複数回答）としては、血液凝固のための注射薬剤の薬価が高い85（70.2%）が最も多く、経験がない74（61.2%）が続いた。受け入れ困難のうち61施設（60.4%）は何らかの方策・条件があれば受け入れ可能と回答し、方策・条件（複数回答）については、定期補充療法の中止39（63.9%）が最も多く、診療報酬における加算34（55.7%）が続いた。

D. 考察

近畿ブロックのHIV診療は、抗HIV療法の普及により、生存予後が大幅に改善し「慢性疾患」としての側面が強まっている。しかし、2024年のAIDS患者数の一時的な増加に象徴されるように、コロナ禍における行政検査の減少が早期診断の機会を奪った可能性は否定できない。今後は、増加する外国籍患者への多言語対応（医療通訳の整備）や、高齢化に伴う中年層以降の非エイズ関連がんスクリーニングの強化が極めて重要となる。緩和ケア病棟の調査から浮き彫りとなった受入れ障壁については、HIVにおける「安全管理への心理的不安」と、血友病における「高額薬剤費という経済的負担」という異なる性質の課題が混在している。これらを解消するためには、拠点病院側からの情報提供や研修の継続が

必要である。

E. 結論

3年間の研究を通じて、近畿ブロックの診療体制は一定の成果を収めたが、中年層の死亡率改善、特定のがんリスクへの対応、外国籍患者への支援、および終末期ケアの受入れ体制整備といった新たな課題が明確となった。今後もこれらの多様化するニーズに対応し、地域格差のない包括的な支援体制の構築を目指すべきである。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Konishi K, Uehira T, Hirota K, Ueji T, Nishida Y, Shirasaka T, Watanabe D. The shifting burden of mortality among men with HIV in Japan between 2007 and 2024 : a single-center retrospective cohort study. BMC Infect Dis. 2025 Dec 5;25 (1) : 1694.
- 2) Konishi K, Uehira T, Hirota K, Ueji T, Nishida Y, Shirasaka T, Watanabe D. Cancer Risk in Men with HIV in Japan : An 18-year Single-Center Cohort Study. Cancers (Basel) . 2026 Jan 14;18 (2) : 248.

2. 学会発表

海外

- 1) Minami R, Watanabe D, Teruya K, Yokomaku Y, Endo T, Watanabe Y, A Marongiu, Tanikawa T, M Heinzkill, Shirasaka T, Oka S. Evaluation of efficacy, safety and tolerability of victegavir/emtricitabine/tenofovir alafenamide (B/F/TAF) in clinical practice : results of the second 12-month analysis of BICSTaR Japan. Asia Pacific AIDS and Co-Infections Conference (APACC) 2023. Jun 8, 2023, Singapore
- 2) Tadashi Kikuchi, Mayumi Imahashi, Hiroyuki Gatanaga, Dai Watanabe, Rumi Minami, Shigeru Yoshida, Tsunefusa Hayashida, Lucky Ronald Runtuwene, Teiichiro Shiino, Masako Nishizawa, Atsuko Hachiya, Kazuhisa Yoshimura, Wataru Sugiura, on behalf of the

Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. Trends in prevalence of pretreatment drug-resistance in Japan : a comparison between the pre- and post- second-generation INSTI era. INTERNATIONAL WORKSHOP ON HIV DRUG RESISTANCE AND TREATMENT STRATEGIES. 20-Sep-2023, Cape Town, South Africa

- 3) Benoit Trottier, Fabrice Bonnet, Miguel Garcia-Deltoro, Massimo Andreoni, Marta Boffito, Brend J. van Welzen, Dan Turner, Sam McConkey, Dai Watanabe, Pro-Liang Lu, Alper Gündüz, David Thorpe, Michelle L. D'Antoni, Tali Cassidy, Andrea Marongiu, Amy R. Weinberg, Richard Haubrich, Stefan Scholten. Real-World Effectiveness and Tolerability of Bictegravir/Emtricitabine/Tenofovir Alafenamide (B/F/TAF) in Treatment-Experienced People With HIV and a History of Antiretroviral Drug Resistance Mutations. IDWeek 2023, 13-Oct-2023, Boston
- 4) Benoit Trottier, Fabrice Bonnet, Miguel Garcia-Deltoro, Massimo Andreoni, Marta Boffito, Berend J. van Welzen, Dan Turner, Sam McConkey, Dai Watanabe, Po-Liang Lu, Alper Gündüz, Jason Brunetta, David Thorpe, Michelle L. D'Antoni, Tali Cassidy, Andrea Marongiu, Amy R. Weinberg, Richard Haubrich, Stefan Scholten. Real-World Effectiveness and Tolerability of Bictegravir/Emtricitabine/Tenofovir Alafenamide (B/F/TAF) in Treatment-Experienced People With HIV and a History of Antiretroviral Drug Resistance Mutations. 33rd Annual Canadian Conference on HIV/AIDS Research. Apr 25th, 2024, Ontario, Canada
- 5) Benoit Trottier, Fabrice Bonnet, Miguel Garcia-Deltoro, Massimo Andreoni, Marta Boffito, Berend J. van Welzen, Dan Turner, Sam McConkey, Dai Watanabe, Po-Liang Lu, Alper Gündüz, David Thorpe, Michelle L. D'Antoni, Tali Cassidy, Andrea Marongiu, Amy R. Weinberg, Cathy Chien, Richard Haubrich, Stefan Scholten. Real-World Effectiveness And Tolerability of Bictegravir/Emtricitabine/Tenofovir Alafenamide (B/F/

- TAF) In Treatment-Experienced People With HIV And a History of Antiretroviral Drug Resistance. American Conference for the Treatment of HIV (ACTHIV) , May 2nd, 2024, Atlanta, GA
- 6) Tadashi Kikuchi, Hiroyuki Gatanaga, Mayumi Imahashi, Dai Watanabe, Rumi Minami, Shigeru Yoshida, Tsunefusa Hayashida, Teiichiro Shiino, Masako Nishizawa, Atsuko Hachiya, Kazuhisa Yoshimura, Wataru Sugiura, Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. Surveillance of HIV-1 transmitted drug resistance in Japan, 2020-2022. Asia-Pacific HIV Research Forum 2024. May 18th, 2024, Taipei, Taiwan
 - 7) Keiko Yasuda, Naoko Misawa, Hiroki Ono, Dai Watanabe, Kotaro Shirakawa, Kei Sato, Hirohide Saito, Akifumi Takaori-Kondo, Yoshio Koyanagi, Osamu Takeuchi. MEX3B, an RNA-binding protein, strongly suppresses HIV-1 viral replication depending on its RNA-binding ability. 3rd France – Japan symposium on HIV/AIDS & infectious diseases basic research. Oct 29th, 2024, Paris, France
 - 8) Hiroki Yagura, Dai Watanabe, Takao Nakauchi, Kazuyuki Hirota, Takuro Matsumura, Takashi Ueji, Yasuharu Nishida, Munehiro Yoshino, Tomoko Uehira, Takuma Shirasaka. Association of ABCG2 genetic polymorphisms with subjective symptoms and weight gain by bictegravir administration in Japanese HIV-1-infected patients. Nov 10th, 2024, Glasgow, UK
 - 9) Takao Nakauchi, Hiroki Yagura, Kazuyuki Hirota, Takuro Matsumura, Takashi Ueji, Yasuharu Nishida, Tomoko Uehira, Munehiro Yoshino, Takuma Shirasaka, Dai Watanabe : Five-year changes in anti-retroviral agents and concomitant medications among people living with HIV at a regional AIDS center in Japan. Asia Pacific AIDS & Co-Infections Conference (APACC) 2025, Jun 13th, 2025, Tokyo, Japan
 - 10) T Kikuchi, M Nishizawa, T Hayashida, H Gatanaga, M Imahashi, D Watanabe, R Minami, S Yoshida, T Teshima, T Ito, M Koga, M Nagashima, K Sadamasu, T Sano, S Uno, H Igari, T Taniguchi, S Samukawa, H Nakajima, Y Yoshino, M Horiba, H Moro, T Watanabe, F Banno, T Kawahata, T Fujii, K Takada, A Nakamura, S Matsushita, H Nakamura, M Matsuda, R Shigemi, Y Iwatani, Y Yokomaku, S Kojima, L R Runtuwene, T Shiino, A Hachiya, K Yoshimura, W Sugiura, on behalf of the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network : Trends in pretreatment drug-resistance (PDR) in Japan, 2020-2023 : Increase in M184V prevalence among treatment-naïve individuals and association with PrEP use. 2025 International Workshop on HIV Drug Resistance and Treatment Strategies program, Sep 1st, 2025, WEB
- 国内
- 1) 矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊大：カボテグラビル・リルピビリンの持効性注射製剤の投与初期における状況調査。第36回近畿エイズ研究会学術集会、2023年6月10日、神戸
 - 2) 渡邊 大、西田恭治、矢田弘史、矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、上平朝子、白阪琢磨：HIV感染者におけるrotational thromboelastometryを用いた凝固機能検査に関する検討。第36回近畿エイズ研究会学術集会、2023年6月10日、神戸
 - 3) 川畑拓也、阪野文哉、浜みなみ、渡邊 大、塩野徳史、西田明子、朝来駿一、青木理恵子、澤田暁宏、西岡弘晶、荒川創一、大森亮介、駒野淳、森 治代、本村和嗣：クリニックにおけるMSM向けHIV・性感染症検査キャンペーン・2022年度実績報告 。第36回近畿エイズ研究会学術集会、2023年6月10日、神戸
 - 4) 古賀道子、堤 武也、石坂 彩、水谷壮利、遠藤知之、田中聡司、渡邊 大、由雄祥代、三田英治、考藤達哉、藤谷順子、四柳 宏：HIV/HCV共感染血友病患者の血中ケモカインの検討。第31回日本抗ウイルス療法学会学術集会・総会、2023年9月14日、横浜
 - 5) 矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野 宗宏、白阪琢磨、渡邊大：ABCG2の遺伝子多型がビク

- テグラビル投与症例の自覚症状およびトラフ濃度に及ぼす影響。第31回日本抗ウイルス療法学会学術集会・総会、2023年9月15日、横浜
- 6) 安達英輔、横幕能行、渡邊 大、湯永博之、岡慎一、白阪琢磨、若田部るみ、Nadine Chamay、Kenneth Sutton、Denise Sutherland-Phillips、Rimgaile Urbaityte、Ronald D'Amico、Jean van Wyk：SOLAR試験12か月の日本人参加者の結果：持効性カボテグラビル+リルピビルン（CAB+RPV LA）のBIC/FTC/TAF経口療法に対する無作為化切り替え試験。第37回日本エイズ学会学術集会・総会、2023年12月3日、京都
- 7) 矢倉裕輝、櫛田宏幸、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：カボテグラビル・リルピビルンの持効性注射剤の血中濃度に関する検討第1報。第37回日本エイズ学会学術集会・総会、2023年12月3日、京都
- 8) 渡邊 大、Vasiliki Chounta、Cristina Mussini、Charles Cazanave、安達英輔、Beng Eu、Marta Montero Alonso、Gordon Crofoot、Kenneth Sutton、Denise Sutherland-Phillips、Rimgaile Urbaityte、Alice Ehmann、Patricia de los Rios、Ronald D'Amico、William R. Spreen：持効性カボテグラビル+リルピビルンのbictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamideに対するPatient-reported outcomes：SOLAR後期第Ⅲ相臨床試験12か月の結果。第37回日本エイズ学会学術集会・総会、2023年12月3日、京都
- 9) 神野未佳、安尾利彦、西川歩美、森田眞子、富田朋子、宮本哲雄、水木 薫、牧 寛子、渡邊大：HIV陽性者の受診行動とその心理的背景に関する研究。第37回日本エイズ学会学術集会・総会、2023年12月4日、京都
- 10) 阪野文哉、川畑拓也、浜みなみ、渡邊 大、塩野徳史、西田明子、朝来駿一、青木理恵子、澤田暁宏、西岡弘晶、荒川創一、大森亮介、駒野淳、森 治代、本村和嗣：クリニックにおけるMSM向けHIV・性感染症検査キャンペーン（2022年度実績報告）。第37回日本エイズ学会学術集会・総会、2023年12月4日、京都
- 11) 照屋勝治、横幕能行、渡邊 大、遠藤知之、南留美、田口 直、Rebecca Harrison、Andrea Marongiu、白阪琢磨、岡 慎一：ビクテグラビル/エムトリシタビン/テノホビルアラフェナミド（B/F/TAF）の日本人HIV陽性者（PWH）に対する有効性と安全性：BICSTaR Japan 24ヵ月解析結果。第37回日本エイズ学会学術集会・総会、2023年12月5日、京都
- 12) 古賀道子、福田あかり、石坂彩、田中貴大、保坂 隆、伊藤俊広、江口 晋、遠藤知之、柿沼章子、木内 英、後藤智巳、高橋俊二、武田飛呂城、照屋勝治、花井十五、藤井輝久、藤谷順子、三田英治、南 留美、茂呂 寛、横幕能行、渡邊 大、渡邊珠代、四柳 宏：非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染血友病等患者に合併する腫瘍に関する研究。第37回日本エイズ学会学術集会・総会、2023年12月3日、京都
- 13) 菊地 正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、椎野禎一郎、俣野哲朗、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、湯永博之、岡 慎一、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、蜂谷敦子、今橋真弓、松田昌和、重見麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、阪野文哉、森 治代、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、山本政弘、松下修三、饒平名聖、仲村秀太、健山正男、藤田次郎、吉村和久、杉浦 互：2022年の国内新規診断未治療HIV感染者・AIDS患者における薬剤耐性HIV-1の動向。第37回日本エイズ学会学術集会・総会、2023年12月3日、京都
- 14) 渡邊 大：3剤療法の歴史と2剤療法の未来。ランチョンセミナー9。第97回日本感染症学会総会・学術講演会、2023年4月29日、横浜
- 15) 渡邊 大：抗HIV作用注射剤と2剤療法の現状と課題。シンポジウム「治療の手引き」。第37回日本エイズ学会学術集会・総会、2023年12月5日、京都
- 16) 渡邊 大：带状疱疹ワクチン。共催シンポジウムHIV感染者のためのワクチンガイドライン：エビデンスに基づく推奨。第37回日本エイズ学会学術集会・総会、2023年12月3日、京都
- 17) 渡邊 大、矢倉裕輝、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：HIVのPR領域とRT領域のアミノ酸残基におけるアミノ酸の時間変化に関する検討。第37回近畿エイズ研究会学術集会、2024年6月15日、

- 大阪
- 18) 久利 歩、矢倉裕輝、藤原綾乃、駒野 淳、渡邊 大：日本人 HIV-1 感染者における CYP3A5 および UGT1A1 の遺伝子多型とビクテグラビル血漿トラフ濃度の関連。第 37 回近畿エイズ研究会学術集会、2024 年 6 月 15 日、大阪
 - 19) 藤見洋佑、浅井克則、井筒伸之、川端修平、黒田秀樹、宇野貴宏、小林弘治、木田将義、金地真生、松本貴晶、西嶋吉継、渡辺 大、上平朝子、金村米博、藤中俊之：当院における HIV 感染症に合併した脳病変に対する手術経験。日本脳神経外科学会第 83 回学術総会。2024 年 10 月 16 日、横浜
 - 20) 矢倉裕輝、中内崇夫、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：CYP3A5 および UGT1A1 の遺伝子多型が血漿中ビクテグラビル濃度に及ぼす影響。第 32 回抗ウイルス療学会学術集会・総会、2024 年 8 月 29 日、熊本
 - 21) 神野未佳、安尾利彦、西川歩美、森田眞子、富田朋子、宮本哲雄、水木 薫、牧 寛子、渡邊大：HIV 陽性者の受診中断・再開・継続理由とその心理的背景に関する研究。第 78 回国立病院総合医学会、2024 年 10 月 19 日、大阪
 - 22) 藤見洋佑、浅井克則、井筒伸之、川端修平、黒田秀樹、宇野貴宏、小林弘治、金地真生、西嶋吉継、松本貴晶、渡邊 大、上平朝子、金村米博、中島 伸、藤中俊之：Brain lesions associated with HIV infection：A single-center surgical experience。第 78 回国立病院総合医学会、2024 年 10 月 18 日、大阪
 - 23) 白阪琢磨、川戸美由紀、橋本修二、三重野牧子、天野景裕、大金美和、岡本 学、湯永博之、日笠聡、八橋 弘、渡邊 大：血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第 1 報 健康状態と生活状況の概要。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年 11 月 29 日、東京
 - 24) 川戸美由紀、三重野牧子、橋本修二、天野景裕、大金美和、岡本 学、湯永博之、日笠 聡、八橋 弘、渡邊 大、白阪琢磨：血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第 2 報 不健康割合の推移。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年 11 月 29 日、東京
 - 25) 三重野牧子、川戸美由紀、橋本修二、天野景裕、大金美和、岡本 学、湯永博之、日笠 聡、八橋 弘、渡邊 大、白阪琢磨：血液製剤によ
 - る HIV 感染者の調査成績 第 3 報 悩みやストレスとところの状態の関連。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年 11 月 29 日、東京
 - 26) 中内崇夫、矢倉裕輝、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：ドラビリンヘススイッチした症例における 96 週までの糖代謝に及ぼす影響に関する調査。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年 11 月 29 日、東京
 - 27) 矢倉裕輝、中内崇夫、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、西田恭治、上平朝子、吉野宗宏、白阪琢磨、渡邊 大：カボテグラビル・リルピビリンの持効性注射剤の血中濃度に関する検討 第 2 報。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年 11 月 29 日、東京
 - 28) 久利歩、矢倉裕輝、藤原綾乃、駒野淳、渡邊大：CYP3A5 および UGT1A1 の遺伝子多型がビクテグラビルの薬物動態および血清クレアチニンに及ぼす影響。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年 11 月 28 日、東京
 - 29) 渡邊 大、西田恭治、矢倉裕輝、藤原綾乃、武山雅博、矢田弘史、廣田和之、松村拓朗、上地隆史、上平朝子、白阪琢磨：包括的凝固機能検査による HIV 感染者の凝固機能に関する検討。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年 11 月 29 日、東京
 - 30) 菊地 正、西澤雅子、小島潮子、Lucky Runtwene、椎野禎一郎、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、湯永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂寛、渡邊珠代、蜂谷敦子、今橋真弓、松田昌和、重見麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、松下修三、仲村秀太、吉村和久、杉浦 互。2023 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年 11 月 29 日、東京
 - 31) 廣田和之、松村拓朗、上地隆史、上平朝子、西田恭治、渡邊 大、白阪琢磨：HIV 感染者に合併した非結核性抗酸菌症の症例。第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会、2024 年 11 月 29 日、東京
 - 32) 矢倉裕輝、中内崇夫、小西啓司、廣田和之、上

- 地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、渡邊大：UGT1A1およびのCYP3A5遺伝子多型が持効性注射製剤の血漿中カボテグラビルおよびリルピビルン濃度に及ぼす影響。第33回日本抗ウイルス療学会学術集会・総会、2025年8月22日、東京
- 33) 菊地 正、西澤雅子、林田庸総、湯永博之、豊嶋崇徳、吉田 繁、伊藤俊広、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、今橋真弓、蜂谷敦子、松田昌和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、松下修三、仲村秀太、小島潮子、Lucky Runtuwene、椎野禎一郎、吉村和久、杉浦 互、薬剤耐性HIV調査ネットワーク：本邦で未治療時に検出されたHIV薬剤耐性変異の伝播寄与の推定。第33回日本抗ウイルス療学会学術集会・総会、2025年8月22日、東京
- 34) 安岡あづき、矢倉裕輝、久利 歩、藤原綾乃、駒野 淳、渡邊 大：ABCG2遺伝子多型とHIV-1感染症の初回治療におけるピクテグラビルの有効性および安全性の関連。第38回近畿エイズ研究会、2025年6月14日、京都
- 35) 安岡あづき、矢倉裕輝、久利 歩、藤原綾乃、駒野 淳、渡邊 大：ABCG2遺伝子多型とHIV-1感染者に対する初回治療におけるピクテグラビル投与による有効性および安全性の関連。医療薬学フォーラム2025、2025年6月28日、旭川
- 36) 神野未佳、安尾利彦、西川歩美、森田眞子、富田朋子、宮本哲雄、水木 薫、牧 寛子、渡邊大：健康に関する統制の所在が保健行動およびスティグマに及ぼす影響。第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年12月5日、熊本
- 37) 岡本 学、渡邊 大、相木佐代、関根知嘉子、長谷川友美：がん末期の血友病（類縁疾患含む）患者とHIV陽性者の緩和ケア病棟での受入れについて。第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年12月5日、熊本
- 38) 矢倉裕輝、中内崇夫、岸田啓太郎、祝洸太郎、小西啓司、廣田和之、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、渡邊 大：ピクテグラビル/エムトリシタビン/テノホビルアラフェナミド配合錠投与時のテノホビル血漿トラフ濃度に関する検討。第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年12月5日、熊本
- 39) 菊地 正、西澤雅子、林田庸総、湯永博之、豊嶋崇徳、吉田 繁、伊藤俊広、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、今橋真弓、松田昌和、重見 麗、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、末盛浩一郎、中村麻子、南 留美、松下修三、仲村秀太、小島潮子、Lucky Runtuwene、椎野禎一郎、吉村和久、杉浦 互：2024年の国内新規診断未治療HIV感染者・AIDS患者における薬剤耐性HIV-1の動向。第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年12月5日、熊本
- 40) 中内崇夫、矢倉裕輝、岸田啓太郎、祝洸太郎、小西啓司、廣田和之、上地隆史、西田恭治、上平朝子、河合 実、白阪琢磨、渡邊 大：インテグラーゼ阻害剤の世代別にみた6年間の併用薬の変化についての検討。第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年12月6日、熊本
- 41) 久利 歩、矢倉裕輝、渡邊 大：近年頻用されている抗HIV薬の簡易懸濁法の適否に関わる検討。第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年12月6日、熊本
- 42) 富田亜沙美、中濱智子、東 政美、米田奈津子、白阪琢磨、上平朝子、渡邊 大：HIV陽性者の喫煙・禁煙に対する認識の調査。第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年12月6日、熊本
- 43) 福田あかり、古賀道子、田中貴大、保坂 隆、石坂 彩、野島正寛、柿沼章子、後藤智己、藤谷順子、伊藤俊広、今橋真弓、江口 晋、遠藤知之、木内 英、阪森亮太郎、高橋俊二、照屋勝治、丹生健一、橋本則久、花井十五、藤井輝久、南 留美、茂呂 寛、横幕能行、渡邊大、渡邊珠代、四柳 宏：薬害HIV感染被害者に対するがん検診受検希望についてのアンケート調査。第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年12月7日、熊本
- 44) 上地隆史、小西啓司、廣田和之、西田恭治、白阪琢磨、上平朝子、渡邊 大：HIV-1感染者に発症した進行性多巣性白質脳症の予後不良因子に関する単施設後方視的検討。第39回日本エ

イズ学会学術集会・総会、2025年12月5日、
熊本

3. その他
なし

- 45) 白阪琢磨、川戸美由紀、橋本修二、三重野牧子、天野景裕、大金美和、岡本 学、潟永博之、日笠 聡、八橋 弘、渡邊 大：血液製剤による HIV 感染者の調査成績（令和6年度）第1報 健康状態と生活状況の概要。第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年12月5日、熊本
- 46) 渡邊 大、小西啓司、廣田和之、上地隆史、辻西和幸、長手泰宏、谷村 朗、廣瀬由美子、森清、西田恭治、白阪琢磨、上平朝子：HIV-1感染者に発症したヒトヘルペスウイルス8型陽性の oligocentric キャッスルマン病と考えられた1例。第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年12月5日、熊本
- 47) 川戸美由紀、大金美和、岡本 学、三重野牧子、橋本修二、天野景裕、潟永博之、日笠聡、八橋 弘、渡邊 大、白阪琢磨：血液製剤による HIV 感染者の調査成績（令和6年度）第3報 現在の困り事、将来の不安と支援の希望の状況。第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年12月5日、熊本
- 48) 三重野牧子、川戸美由紀、橋本修二、天野景裕、大金美和、岡本 学、潟永博之、日笠聡、八橋 弘、渡邊 大、白阪琢磨：血液製剤による HIV 感染者の調査成績（令和6年度）第2報 悩みやストレスの状況の年次推移。第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年12月6日、熊本
- 49) 渡邊 大：Premature Agingを踏まえたARTの個別化治療。共催シンポジウム HIV 感染症と Premature Aging。第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年12月5日、熊本
- 50) 渡邊 大：長期治療での薬剤切替時における選択。ドウベイト共催シンポジウム。第39回日本エイズ学会学術集会・総会、2025年12月6日、熊本

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし